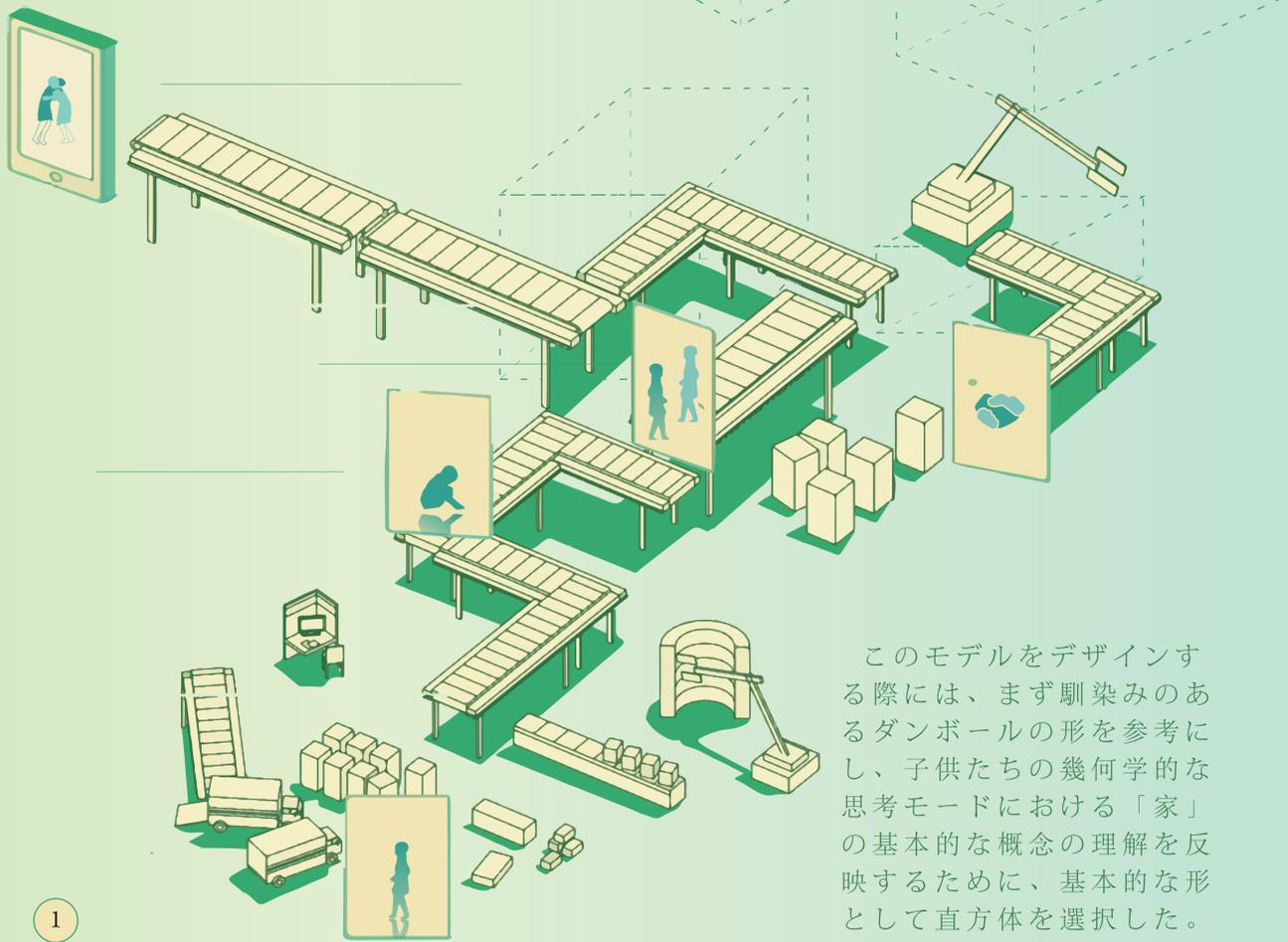


Soft Cabin

Relax cabin

幼い頃、巨大なダンボール箱を使って自分だけの空間を作り、そこから離れられず、長時間あてもなく居られるようになり、友たちを「家」に招いた。小学生の頃は、布団をかぶったり、「宇宙の冒険」をしたり、友達と話したりするのが大好きでした。このデザインアイデアは、子供たちが大好きな「ボックスルーム」から考える。箱の組み合わせを通じて、子供たちに安全感とストレス減少の空間を構築ことを願っている。



このモデルをデザインする際には、まず馴染みのあるダンボールの形を参考にし、子供たちの幾何学的な思考モードにおける「家」の基本的な概念の理解を反映するために、基本的な形として直方体を選択した。長方形の選択は、単なる幾何学的な美学を反映しているだけでなく、基本的な形に対する子供たちの認識と好みも反映している。

BACKGROUND



「小さな空間のようなものは、子どもたちの空間の敏感な時期の現れです。子どもたちは、さまざまな空間の中で異なる空間を知覚する必要があります。明確な空間感覚。子供たちは、さまざまな空間感覚を知覚することによって、空間の概念を発達させます。」

... 孙瑞雪《捕捉儿童敏感期》



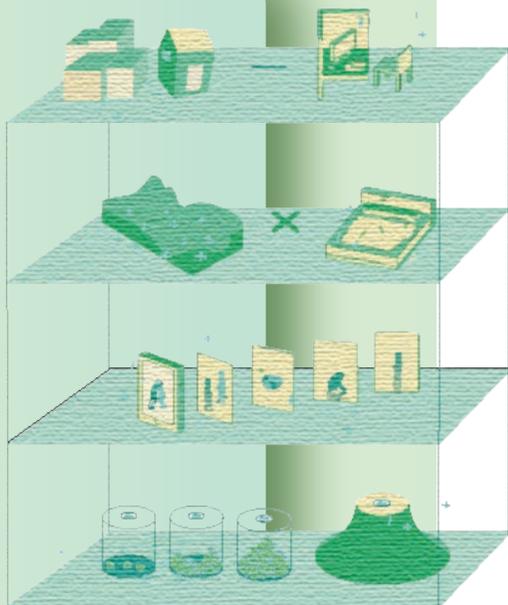
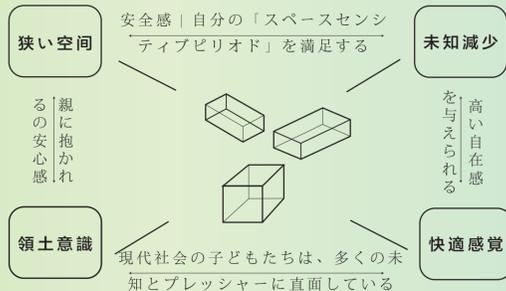
イギリスの玩具会 Ribena Toyが行ったある調査によると、ダンボール箱を好む子供は、他のおもちゃを好む子供の2倍であることがわかりました。

インタビュー

私のダンボール箱は私の心の中の小さな城であり、すべてのモンスターとゴーストを隔離することができ、私を夢中にさせ、勇気を与え、安心感を与えてくれます。

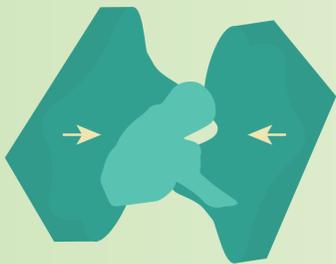
寝ている時はゆりかごのようにたたんでいますが、正直どうやってたんだかわかりませんが、包み込んでくれるだけで満足感と安心感があります。

子供の頃、テレビが入ったダンボール箱を地面に逆さに留めて、小さなドアをハサミで切って中に入って遊ぶのが好きで、ダンボール箱の中に入ると、世界が自分のものだと感じました。



アンケート結果とインタビュー内容を参考して、「家づくり」は自然から生まれ、「領土」「安全」「快適」(図6)という本来の3つのニーズを総合したインタラクティブデザインと考える。子どもたちが遺伝子の奥深くから、そして常に探し求め、憧れている。おそらくこれは人間にとっての安全の本来の定義でも参考になる点と考えられる。

DESIGN CONCEPT



このモデルはモジュラー設計コンセプトを採用しており、特定のニーズに応じて組み立てることができる11個の独立したコンポーネントで構成されている。モジュール化にすることで、モデルの輸送と組み立てが容易になると同時に、モデルがさまざまな構成要件やスペース使用シナリオに適応できる柔軟性も提供され、モデルの実用性と適応性が向上する。さらに、子供の視覚認知、安全ニーズ、空間探索の心理的特性、及びモデルの可動性と適応性が考慮されている。このモデルの設計と応用を通じて、私たちが深い理解を得ることが期待されます。このモデルの設計には、子供の視覚認知、安全ニーズ、空間探索の心理的特性、モデルの可動性と適応性が考慮されており、このモデルの設計と応用を通じて、子どもに優しくつろぎ空間デザインの革新と実践をより深く理解できるようになる。

インタラクティブイメージ